

研究所とのNet Work

所報

Aichi Labor Institute

も：く：じ

- ・ 中部電力浜岡原子力発電所の全機停止にあたって（声明）
原発問題住民運動静岡県連絡センター・・・林 克 p2～
唐沢 裕史

- ・ 浜岡原発停止を歓迎し、浜岡原発の永久停止・廃炉への
取り組み・エネルギー政策の転換をめざして・・・林 克 p3～

- ・ 福島原発事故：現状～今後どうするエネルギーの転換
・・・元東京電力労働者 p5～

資料1 福島第一原発・設備の概要

資料6 副島原発で復旧作業に奮闘する労働者

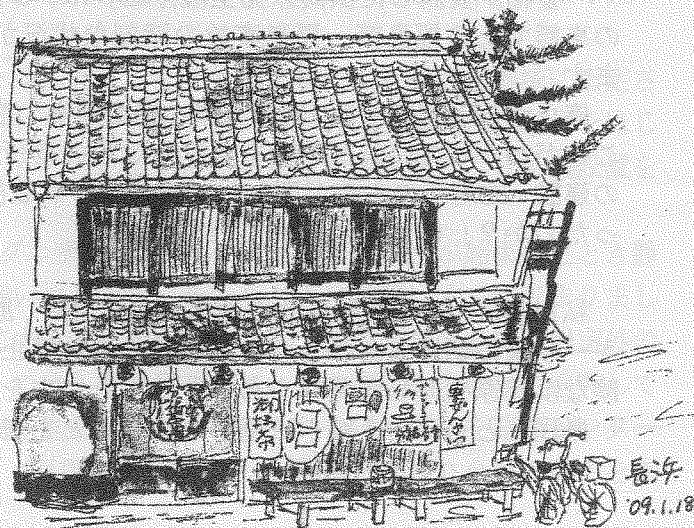
資料6-1 原子力保安調査官横田氏の記者会見

6-2 現場東電労働者からのメールその1

福島原発19歳東電社員の日記

資料7 電力総連の当面の対応について

資料8 補償費捻出でリストラ提案



● 第158号特別号
○ 2011年5月15日

2011年5月12日

中部電力浜岡原子力発電所の全機停止にあたって (声明)

原発問題住民運動静岡県連絡センター

代表委員 林 克

唐沢 裕史

〒420-0856 静岡市葵区駿府町 1-12

静岡県教育会館内 静岡高教組気付

5月6日 菅直人首相は「国民の安心と安全を考えて、中部電力浜岡原子力発電所のすべての原子炉の停止をするよう中部電力に要請した。」と発表しました。

中部電力は5月9日浜岡原発全面停止の要請を受け入れることを正式に表明しました。

浜岡原発の即時停止を望んだみなさんはじめ運動に協力いただいた県民のみなさんとともに心からこの措置を歓迎したいと思います。街頭署名における県民の積極的な反応にみられるとおり県民の運動の大きな成果といえます。

「浜岡原発全機停止」について静岡県知事も歓迎を表明、県内自治体の多くの首長さんから「一旦止める必要がある」「妥当だ」「ほっとした」の声が寄せられました。

「首相が要請した浜岡原発全機停止」は、3月11日、世界で初めての事態である福島第一原発事故の深刻な状況から出されたものと考えます。

停止する浜岡原発は「建設当時、東海地震の想定震源域の真上であることがわかっていれば建設をさけたはずの場所」と指摘され、浜岡原発の建設・立地そのものが問われています。事故後「浜岡に原発は必要だったのか？」の声も出されています。

私たちは、福島原発事故の実態に向き合い、原発にたよらないエネルギー政策の転換とあわせて浜岡原発の永久停止への取り組みを広げ、危険な浜岡原発運転再開をやめさせることに力をつくします。

県民とともに引き続き一層努力することを表明します。

以 上

浜岡原発停止を歓迎し、浜岡原発の永久停止・廃炉への 取り組み・エネルギー政策の転換をめざして。

2011年5月16日

原発問題住民運動静岡県連絡センター

代表委員 林 克

2011年5月9日の昼休み、静岡市の繁華街で「中部電力は首相の浜岡原発運転停止要請の受け入れを」の声が響きました。道行く人が次々と3.11を契機にスタートした浜岡原発即時停止署名に応じます。中には「もう決まったんじゃないの」「永久停止じゃないとだめだよ」と声をかける人たちがいます。すぐに話の輪ができます。県民が浜岡停止を切望していることがうかがわれます。そしてその日の夕方、中部電力は水野社長の記者会見で受け入れを表明し、原発問題住民運動静岡県連絡センター（以下原発センター）をはじめとした県民の運動の力で歴史的な運転停止を勝ち取ることができました。

歴史をさかのぼれば浜岡原発は、1967年7月5日付サンケイ新聞に設置計画が発表されました。中部電力は、当初三重県芦浜に原発建設を進めていましたが、地元漁民や住民団体の強い反対運動でとん挫し、静岡県の浜岡に第二の白羽の矢が当たりました。原発設置計画が公表されると、9月浜岡町議会全員協議会では中電との交渉に入ることを決め、地元浜岡町民の中から浜岡原発研究有志会ができ、周辺5漁協と福田、遠州漁協は「浜岡原発設置反対漁民協議会」を結成し、浜岡原発反対共闘会議が組織的な反対運動を展開しました。このころプレートテクトニクス理論による東海地震の可能性がいわれましたが一般にはまだまだ浸透せず、71年に1号機、74年に2号機の着工を許してしまいました。

3号機設置に際して、静岡県をはじめとして6県が地震防災対策強化地域に指定され、気象庁に「判定会」が設置されたことを追い風に、静岡県労働組合評議会をはじめとする運動が広がりました。しかしそれにもかかわらず、中部電力は3号機設置を強引に推し進めました。

2009年8月、駿河湾地震（マグニチュード6.5）において、揺れが始まったとき静岡県民は「すわ東海大地震」と思いましたが、幸いなことに地震はすぐに収まりました。しかしそのとき揺れによってすべての号機が停止し、浜岡原発5号機は想定外の揺れに見舞われました。県民は、こうした異常事態に、その原因を徹底して追究してほしいと要求し、再稼働した号機も含めて停止してほしいという署名を原発センターとして取り組みました。署名は4ヶ月間というわずかな期間で24000余筆の署名を集め経済産業大臣に提出しました。

2011年3月11日以降の東日本大震災、特に福島原発事故のすさまじい惨状は、静岡県民にとって人ごとではないと強く実感させるものでした。浜岡原発は、東海地震の震源域の真上に建っている「世界一危険な原発」といわれているからです。原発センターでは、一昨年の駿河湾地震を契機とした即時停止署名につづいて再度署名を行うことを決め、地域に広げると同時に何回も街頭でも訴えました。静岡市の繁華街の署名では、昼休みの1時間に毎回200筆近い署名が集まります。車から降りてわざわざ署名する人、自分の店に署名を起きたいと持って行く人、飛び入りで署名に参加する人、訴えが終わると「いい話でした」と飴を持って駆けつけてくれる人など、街頭でさまざまなドラマが生まれ、これまでにない手応えを感じました。

今度の福島原発事故を通じて原発センターをはじめとしたさまざまな県民の運動が吹き出し、運動の力、世論の声が政府を中電への停止要請へと動かしたと確信しています。

浜岡原発の運転は停止しましたが、これは「一時停止」で運転再開を前提としています。中電は原発センターとの交渉の場でも、防潮堤の建設など津波についての中長期的な対策をクリアするという条件さえ整えば運転を再開する旨言明しています。しかし福島原発事故において人知のおよばない危険性を目の当たりにした私たちは、「こんな危険な場所にそもそも原発をつくるべきではない」という原点に立ち返り、エネルギー政策の転換、浜岡原発の永久停止・廃炉に向けた運動を進めていく決意です。

浜岡原発を全停止

中部電力、首相要請受け入れ

中部電力は9日、臨時取締役会を開き、浜岡原子力発電所（静岡県御前崎市）の全面停止を決定しました。現在運転している4号機と5号機を停止し、現在、定期点検中の3号機の運転再開を見

送ることにしました。1号機と2号機はすでに廃炉が決まっています。（2・4面に関連記事）

中部電力の水野明久社

長は同日の会見で浜岡原発の停止を決めた理由について「首相の要請は極めて重いと受け止めた」と語りました。また、

「50％地域への電力融通 共産党は30年前か

止し、現在、定期点検中の3号機の運転再開を見

浜岡原発 中部電力唯一の原発で、福島第1原発と同じ沸騰水型軽水炉1～5号機。1号機の営業運転開始は1976年。1、2号機は、耐震補強に巨費がかかるとして廃炉を決め2009年1月に運転終了。3号機は定期点検中で7月に運転再開方針を示していました。



針を示していました。4、5号機は運転中。

造ったことが間違い

原発問題愛知県連絡センター代表委員の一人、三枝豊明さん（元中電労働者）の話 本来なら国民の安全を守るという立場から自主的に停止するべきでした。そもそも浜岡原発は地震の震源域の真上に建つ世界一危険な原発です。地盤が割れるような場所に原発を造ったこと自体が間違いでした。防波堤を造れば安全が確保できるなんて言っばの話です。

中電が原発停止を表明したのは

しんぶん
赤旗
2011-5-10

福島原発事故：現状～今後どうする

〈エネルギー政策の転換〉

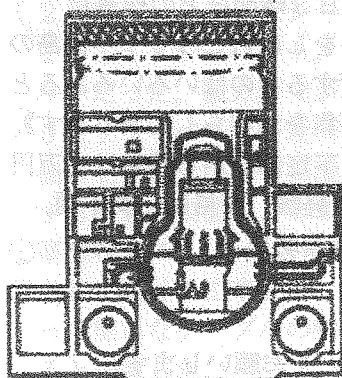
元東京電力労働者

1. 福島第一原発の概要－（資料1）
 - *原子力発電の仕組み*原子炉の型は沸騰水型と加圧水型*東電は沸騰水型（欠陥炉）の指摘（GE・東芝技術者告発）
2. 地震発生時どうだった－ 運転中 第一原発1～3号機 第二原発1～4号機
定検中 第一原発4～6号機
 - *緊急時。事故時の対応として必要なこと・「停める」・「冷やす」・「閉じ込める」
 - ・1～3号機、第二1～4号機→自動停止ここまでよかったが「冷やす」で福島第一原発1～3号機が失敗
 - ・なぜか→
損壊 っていうの 100℃以下まで冷却
 - ・これが事態を深刻にした→燃料棒溶解 1号55% 2号35% 3号30%
 - ・使用済み核燃料プールで冷却保管中の燃料棒損傷 停止中の4号のプールが深刻
 - ・水素爆発で建屋損壊 ・2号機は、格納容器一部（圧力制御室）破損
 - ・封じ込める「5重の壁」が三つまで破れてしまった→放射性物質の放出
 - ・圧力容器、燃料プールへの注水→建屋内外汚染水を増やし復旧作用の妨げに
 - ・第二原発1～4号機は（冷温停止） 外部電源確保
 - *東北電力女川原発1号機（52.4万）2号機～3号機（82.5万）運転中「冷温停止」
日本原電東海第2原発（100万） 運転中 「冷温停止」
3. なぜ、福島第1原発だけ事故が拡大したのか－根本は「安全神話」に固執したこと
 - ①津波対策を軽視したこと－地元住民、学者の意見を無視した東電の責任は免れない。
 - *福島原発 敷地 海拔10～13m 第1は5.7m 第2は5.2m
「土木学会指針で決めた」 津波評価部会の委員・幹事に電力会社
実際は最大14m以上 屋外のポンプ、軽油タンク損傷、建屋内浸水
 - *女川原発 敷地 海拔約15m 9.1m 最大17mの津波で被害はあったが
外部電源で対応出来た→一時避難所にも
 - ②外部電源が喪失・非常用発電機→津波で13台台中12台運転不能 燃料タンク流失 冷却機能を失ってしまった。
女川原発－確保 東海第2原発－喪失、非常用ディーゼル発電機3台運転し電源確保したが1台は津波で故障、2台で冷温停止に
 - ③初期対応に問題がなかったか？
 - ・海水注入に躊躇した東電－廃炉を懸念した（米紙報道） 東電副社長記者会見－記者質問に言葉濁す
 - ・非常用炉心冷却装置注入不能 原子力災害特別措置法第15条11日16時45分発令、緊急事態宣言19時03分 20時50分 2Km避難命令
 - ・12日、20時05分 保安院は、原子炉等規制法第64条第3項の規定に基づき、福島第一原子力発電所1号機の海水注入等を命じた。
 - ・東電が海水注入され始めたのは、12日の午後8時20分、1日の空白があった。
4. どうなっていて、やっていることは・・・
 - 1) 原子炉、格納容器の状況－ 国際事故評価尺度（INES）事故評価「レベル7」
国内原発史上最悪の事故
 - 2) チェルノブイリ、スリーマイル原発事故とどこがおなじで、どこが違う
 - ・事故の内容はスリーマイル事故と同じ
 - ・チェルノイリ 格納容器がない炉の爆発、黒煙が燃焼、一挙に放射性物質が飛散

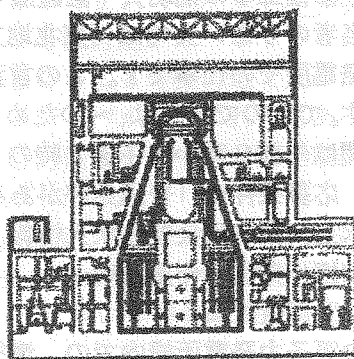
- ・福島原発は、あらゆる方法で原子炉を冷却することが第一。そうすればまだ放射性物質の放出を押さえ込むことは出来る→東電の計画
- 3) 汚染された水の排除—機器点検や電源確認など作業が出来ない
 - ・高レベル放射線量下の厳しい作業環境の改善する上で
 - ・大気への放出、海への流失を押さえる上で
- 5. 過酷な環境の中で復旧に取り組み労働者—(資料6)
- 6. 労働組合の対応はどうか—(資料7)
 - *電力総連の声明 *政府に要請—被曝線量超えても原発で雇用を
- 7. 今後どうする・・・
 - 1) 福島第1原発1～6号機は廃炉。福島第2原発1～4号機は安全点検と地元・国民の承認が前提
 - 2) 既設原発の総点検と原発中心の電源開発は見直し
 - ・既存原発(54基)の総点検の実施、・運転期間を(例えば30年)法的に決めて、期限になったら順次廃炉、・現在定検中の原発(19基)の運転は、地元・国民の承認が前提、・新設(14基)は中止、
 - 3) それには国の原子力関係機関を「推進」と「規制」と別機関にすることが基本
 - 3) 原子力に変わるエネルギーの開発 小水力、太陽光など自然エネルギーの開発—受け入れられるスマートグリッドの構築—耐え得る蓄電池の開発。
 - 4) 電力供給体制の在り方—発送電一貫体制、国の政策で周波数変換装置の拡大を
 - 5) 省エネの推進、節電
 - 6) エネルギー大量消費時代からの転換—労働時間短縮し、ゆとりある暮らしに
- 8. 地震で原子炉設備への影響はなかったのか—あまり報道されていないこと
 - ・第1原発 1号機447、2号機550 3号機507 4号機301
5号機548 6号機444 (何れも東西方向単位ガル)
 - ・第2原発 1号機230 2号機196 3号機216 4号機205 (同)
これは暫定値だが、第2原発を除き基準振動値を超えている。M9の地震で送電線を支える原発西側の鉄塔が倒れ外部電源を遅れなくなった
 - ・女川原発では基礎版上で567ガルの加速度を観測している。余震でも
 - ・収束後、キチンと点検しなければならない。配管接続箇所など
- 9. 無謀な「計画停電」と弊害 再びさせないために
 - 1) 現実的に東京電力の供給力は不足している—供給力確保を政府の責任で行う
 - ・東電の今夏の計画 最大電力(7月)5500KW 供給力 5200万KW
想定の上では、300万KWが不足、
 - ・企業の自家発電所、卸電気事業者、IPPの発電所からの電力供給、
 - 2) 使う側の規制—大口電力(主として大企業)需要家への規制—
 - ・東電に、需給調整契約に基づく対応をさせる。
 - ・電電気事業方第27条—大口需要家に電力使用規制 休日増、労働時間短縮で
 - ・省エネルギーの促進と国民の節電への理解
- 10. 正確な情報を速やかに公開させること
 - ・放射線量報道に冷静に対応する
 - ・強まる東電パッシング—労働者への風当たりも
- 11. リストラの提案 人員削減と年収20%カット、役員は50% 7月から(資料8)

福島第一原子力発電所 設備の概要

		1号機	2号機	3号機	4号機	5号機	6号機	
原子炉 主要 設備	電気出力(万kW)	46.0	78.4	78.4	78.4	78.4	110.0	
	建設着工	1967/9	1969/5	1970/10	1972/9	1971/12	1973/5	
	営業運転開始	1971/3	1974/7	1976/3	1978/10	1978/4	1979/10	
	原子炉形式	沸騰水型軽水炉(BWR)						
	格納容器形式	マークⅠ					マークⅡ	
	国産化率(%)	56	53	91	91	93	63	
	主契約者	GE	GE・東芝	東芝	日立	東芝	GE・東芝	
	熱出力(万kW)	138	238.1				329.3	
	燃料集合体数(体)	400	$2\frac{3}{4}$ (Hox32) 548 $3\frac{1}{2}$ Hox H-3				764	
	燃料集合体全長(m)	約4.35	約4.47				約4.47	
原子炉	制御棒本数(本)	97	137				185	
	圧力容器	内径(m)	約4.8	約5.6				約6.4
		全高(m)	約20	約22				23
		全重量(t)	440	500				750
	格納容器	全高(m)	約32	約33		約34		約48
		円筒部直径(m)	約10	約11				約10(上部)
		球部直径(m)	約18	約20				約25(底部)
		圧力抑制 プール水量(t)	1,750	2,980				3,200
	タービン	回転数(rpm)	1,500					
		入口蒸気温度(°C)	282					
蒸気圧力(kg/cm2g)		66.8						
種類		二酸化ウラン						
燃料	ウラン装荷量(t)	69	94				132	
	燃料集合体(本)	400	548				764	



マークI型



マークII型

※マークI型とマークII型のイラストの大きさの比率は一致していません。

【資料6】 福島原発で復旧作業に奮闘する労働者

1. どのような労働者が福島原発に

◆東電 約600人 他電力373名(社員274名、協力会社99名) 4月15日現在

北海道28名(社員22名、協力会社6名)

東北88名(社員51名、協力会社37名)

中部51名(社員49名、協力会社2名)

北陸16名(社員14名、協力会社2名)

関電47名(社員34名、協力会社13名)

中国19名(社員13名、協力会社6名)

四国30名(社員19名、協力会社11名)

九州32名(社員15名、協力会社17名)

日本原電16名(社員11名、協力会社5名)

電源開発4名(全て社員)

日本原燃42名(全て社員) 他電力・原燃から応援

◆東電関連会社 東電工業(現地事務所) 東電環境エンジニアリング(現地)、東京エネシス(現地) 関電工(200名) 地元中心の協力会社(224名)

◆原子力メーカー 東芝 原子炉格納容器の設計者や工程管理の技術者など現地で支援活動を行った人数は累計600人を超え、平均190人以上が毎日支援作業を行っている。

日立製作所 現地に350人以上派遣し所内電源の復旧、圧力容器と燃料プールの冷却、排水作業、窒素封入作業

IHIは(東芝から原子炉受注)30人 注水支援

◆ゼネコン 大成、清水、鹿島建設 福島第一原子力発電所1～4号機周辺で10日、重機の遠隔操作によるがれきの撤去作業。周辺は1、3号機で起きた水素爆発で飛び散り、放射性物質が付着したがれきが散乱。放射線量が毎時200～300ミリ・シーベルトに達する場所もある。

◆派遣会社、ハローワークで募集 各地から派遣・アルバイトの労働者が

・愛知県の人材派遣会社が10人ー「清掃作業員、作業補助」

会社の募集要項によると、勤務地は「福島県」とあり、仕事内容は「原子力発電所の清掃、修復工事の補助」、「防護服や保護具を着て、一日3時間ほどの作業」

採用担当者のうたい文句は《東北地方のかたのお手伝いをしに行こう!! 福島の原子力発電所での仕事です。この言葉を聞いてイメージするものはいろいろあると思います。ですので今回は、～のためと割り切れる方の募集をお待ちしております》。勤務時間は午前8時から午後5時のうち3時間程度で、不定休ながら時給は1万円と高額。応募条件は「普通免許がある方大歓迎」。学歴、経験、資格は一切不問。

・大阪の水上興業有限会社の求人情報【清掃作業員、作業補助】

職種 清掃作業員、作業補助

雇用形態 派遣社員

福島県の原子力発電所構内での、清掃作業、作業補助などをお願いします。

防護服など保護具は支給します。支給した保護具を身につけた上で、現場の指示に従って動いていただきます。

現場作業員のことを考えた上で一日の作業時間を3時間前後とさせていただきます。

給与 日給 3 万円：一日作業 3 時間で 30000 円～です。

採用資格条件 特になし

年齢制限 年齢不問

勤務時間 8：00～17：00 のうち 3 時間が実務

休日 現場カレンダーによる

雇用期間 3 ヶ月の予定

勤務待遇 寮あり、飯つき、制服支給、現場への旅費一部支給

交通手段 宿から現場まで乗り合いでいきます。

・ハローワークでも募集

掲載：2011 年 02 月 03 日～2011 年 04 月 30 日

福島原発の作業員募集

仕事内容：原子力発電所内の定期検査

雇用形態：正社員以外

給与：日給 9,000 円～11,000 円

募集年齢：不問

特徴：学歴不問、年齢不問

スキル・経験：不問

会社名称：株式会社高山総業

従業員数：10 人

事業内容：発電所関係の建設及び設備メンテナンス業務並びに一般建築業務、土木工事業務と農業代行請負等

2. 過酷な作業環境

1) 建屋内外とも放射能汚染環境下での作業。

- ・作業員の被曝（ひばく）量は年間 100 ミリシーベルトとされていたが、今回は 250 ミリシーベルトに引き上げられた。
- ・原子炉建屋内、1 号機で最大 49 ミリシーベルト、2 号機が 4 ミリシーベルト、3 号機が同 57 ミリシーベルト。（ロボット測定 17 日、18 日）
- ・空間放射線量は原子炉建屋付近が比較的高く、1 号機 10～40 ミリシーベルト▽2 号機 3～70 ミリシーベルト▽3 号機 3～60 ミリシーベルト▽4 号機 0.4～1.1 ミリシーベルト。タービン建屋付近は 3 号機付近が 3.5～20 ミリシーベルトだった。数カ所でがれきの線量も測定。20 日に 3 号機付近で見つかった 900 ミリシーベルトが最大で、近くに 300 ミリシーベルトのがれきもあった。2 号機のトレンチにある高濃度の放射性物質を含む汚染水を集中廃棄物処理施設へ移送する配管の表面は、75～160 ミリシーベルトだった。

- ①事態収束に、「自分たちがやらねば」と危険を覚悟で復旧に力を尽くす労働者
- ②ある下請けの工事会社では、高齢の専務や社長たちが作業に名乗り出た。「俺たちだって簡単なケーブルの敷設作業ぐらいはできる」。若い作業員の将来を思い、盾になると決意した。
- ③家族に・・・「再登板もあるかもしれない」。首都圏に住む東京電力社員の妻は 4 月、夫からこう打ち明けられた。震災の数日後から福島第一原発に詰め、最近ようやく東京に戻ったばかり。

④現在の急務は原子炉冷却に不可欠な電源の復旧作業だが、東電によると、実際に作業できるのは技術を持つ70人程度。しかも高レベルの放射線を長時間浴びるのを避けるため、20人くらいずつ順番に作業せざるを得ない。「真っ暗な中、投光器や懐中電灯を使いながら、防護服と顔を全部覆うマスク、ゴム手袋での作業になる。大変時間がかかり苦労している」(東電の担当者)

2) 増える被曝100ミリシーベルト超は30人(4月25日現在)

累積線量が100ミリ・シーベルトを超えた東電と協力企業の作業員は25日現在で30人、50～100未満が119人、50未満が5628人。東電では、累積100ミリ・シーベルトを超えた社員について、敷地内でも比較的線量の低い免震重要棟内での事務作業などに配置換えしているという。厚生労働省は先月、同原発事故対応に限り上限を250ミリシーベルトに引き上げたが、特例の上限に達した作業員はいないとしている。作業環境改善のため、5、6号機のサービス建屋内に空調付きの休憩室を設置した。室内の放射線量は毎時3～5マイクロシーベルトで、マスクを外して休憩し、水分補給などもできるという。同社は1～4号機側にも、同様の休憩室を設置する方針。

3) 女性社員被曝(23日退避) 限度は3ヶ月で5ミリシーベルト以内。現場には10代から50代の18人。16人は限度以下。50才代女性17.55ミリシーベルト。免震重要棟内作業でも1.89ミリシーベルト、13.6ミリシーベルトの内部被曝。1人も限度を超え、調査中。

3) 労働者の被害状況(4月23日現在)

1. 3月11日の地震による福島第一原子力発電所の負傷者

- ・社員2名(軽傷、既に仕事復帰)
- ・社員2名(地震、津波の際に割れたガラスで切り傷、既に仕事復帰)
- ・社員1名(避難の際に擦り傷、既に仕事復帰)
- ・協力会社1名(両足骨折で入院中)
- ・死亡2名(地震発生後から東京電力(株)の社員2名が行方不明となり、捜査を継続してきたが、3月30日午後、4号機タービン建屋地下一階において当該社員2名が発見され、4月2日までに死亡が確認された。)
- ・3月11日の地震発生の際に、福島第二原子力発電所において、協力会社の1名(クレーンオペレータ)が死亡。

2. 3月12日の福島第一原子力発電所1号機の爆発による負傷者

- ・1号機付近で爆発と発煙が発生した際に4名(社員2名、協力会社2名)が1号タービン建屋付近(管理区域外)で負傷。川内診療所で診療。社員2名は既に仕事復帰。協力会社の2名は自宅療養中。

3. 3月14日の福島第一原子力発電所3号機の爆発による負傷者

- ・社員4名(既に仕事復帰)
- ・協力会社3名(既に仕事復帰)
- ・自衛隊4名(うち1名は内部被ばくの可能性を考慮し、「(独)放射線医学総合研究所」へ搬送。診察の結果内部被ばくはなし。3月17日退院)

4) 原子力保安調査官横田氏記者会見(資料6-1)

5) 現場東電労働者からのメールその1(資料6-2)

その2

「福島第2の女性社員が本店にメール」

「お疲れ様です。」

連日、災害対策本部でお忙しくてメールなど見てる余裕もないと思いますが、差し当たって今の発電所の現状をお伝えしたく、メールを差し上げます。

この度の震災以降、私たち発電所の人間は連日不眠不休で復旧作業にあたっています。

震災から約2週間が経過し、1Fもだいたい収束に向かい、このまま冷却がうまくいくってくれることを願うばかりです。

ご存じのとおり、1F、2Fに働く所員の大半は地元の住民で、みんな被災者です。家を流された社員も大勢います。

私自身、地震発生以来緊急時対策本部に缶詰になり、毎日不眠不休でみんなと戦っておりますが、個人的には、実家が浪江町の海沿いにあるため、津波で町全体が流されました。実家の両親は津波に流され未だに行方がわかりません。本当なら、すぐにでも実家があるところに飛んでいきたい・・・

でも、避難指示が出ている区域で立ち入ることすらできません。自衛隊も搜索活動に行ってくれません・・・

こんな精神状態の中での過酷な労働・・・もう限界です！

今回の地震は天災です。でも、原発による放射性物質の汚染は東電がこの地にあるせいです。地元住民の感情は、今じゃ地震すらも東電のせいだと言わざるを得ない勢いだと思います。みんな故郷を離れ、いつ戻れるかどうかもわからない状況で、不安を抱え怒りを誰にぶつけてよいのか分からない！それが今の現実です。

これから、新学期を迎えるにあたって、地元の子供たちは避難地区に転入せざるを得ないでしょう・・・みんな家も仕事も学校も友達も家族も全部失ってしまいました！

こんな現実を誰が耐えられるのでしょうか・・・

どうか、この現実を社内外に届けてください。

原子力の人間が悪い訳ではありません！誰が悪い訳ではありません！

この発電所にいる人間の大半は地元の人間で、私も含めてみんな被災者なのです。被災者である前に、東電社員としてみんな職務を全うしようと頑張ってます。

特に2Fは、自分たちのプラントの安全性の確保の他に、1F復旧のサポートも同時にやっていた状況で、現場はまるで戦場のようでした。

社員みんな心身共に極限まできています。どうかご理解下さい。

これから会社も、会社そのものの存続がかかれば、原子力を切り捨ててしまうかもしれません。でも、私たちは最後まで戦います！

本店からもご支援下さい。よろしくお願いします。」

【資料6-1】 原子力保安検査官事務所の横田一磨（かずま）所長記者会見の報道

●東日本大震災：福島第1原発事故 作業員、厳しい環境 粗食1日2回／下着替えなく
経済産業省原子力安全・保安院の検査官が28日会見し、東京電力福島第1原発の敷地内で復旧作業に当たる作業員の状況を「作業環境は厳しい」などと語った。

同原発に駐在する原子力保安検査官事務所の横田一磨（かずま）所長（39）は22日に震災後初めて原発施設内に入り、5日間駐在した。

現地には約400人の作業員がおり、原子炉建屋近くの「免震重要棟」という建物で寝起きしている。建物内でも1時間当たり2～10マイクロシーベルトの放射線量があるため、放射線を遮る鉛が入ったシートを床に敷いている。

食事は1日2回。朝にビスケット30枚程度と小さな野菜ジュース1本、夜は非常用のレトルトご飯と缶詰一つ。当初は飲料水も限られ、1人当たり1日ペットボトル1本（1・5リットル）だったという。

作業は、全身を放射線から守る防護スーツに全面マスクで行う。手袋を二重にし、靴にはカバーを着けている。作業ができない夜はミーティングを一本締めて終えた後、会議室や廊下、トイレの前などで毛布にくるまり雑魚寝をしている。

食料などの物資を積んだバスが1日2回、施設外から免震重要棟に到着。一部の作業員の交代もこのバスを使う。横田所長は「下着が替えられないことへの不満の声もある。作業を続ける上でのエネルギーを得るのが食事なので、より多くの物資を運ぶ方策を考えている」と話す。

横田所長も作業員に同行して中央制御室での作業の様子を写真に撮影するなどした。敷地内に滞在した5日間で計883マイクロシーベルトの被ばくをしたという。復旧作業の進行状況について横田所長は「タービン建屋地下で見つかった汚染水の処理で作業が進まない。職場環境の改善なども国が協力できる限りしていきたい」と話した。【関東晋慈、松本惇】 毎日新聞 2011年3月29日

◆福島第1原発での作業の流れ◆

午前 6時ごろ 起床
7～8時 免震重要棟でミーティング
8～10時 朝食（ビスケットと野菜ジュース）
10時ごろ 建屋で作業開始
午後 5時ごろ 作業終了
5～8時 夕食（レトルトご飯と缶詰）
8～10時 免震重要棟でミーティング
10時ごろ 夜勤の作業員を除いて就寝

●東電「決死隊」1日2食の劣悪環境 一時は水も1・5リットルのみ

原発事故現場での劣悪な処遇について、実態を報告する福島第1原子力保安検査官事務所の横田一磨・統括原子力保安検査員＝28日、福島市の県災害対策本部（中川真撮影）

東京電力福島第1原発事故の収束に向けて、放射線量の高い現場で命がけの作業を続け

ている同社と協力会社の社員が、1日に「非常食2食」しか摂取できないという劣悪な環境に置かれていることが28日、分かった。原子力安全・保安院の横田一磨統括原子力保安検査官が福島県災害対策本部で会見し、明らかにした。

横田氏は作業状況などの確認のため、22～26日に福島第1原発を視察。現場では新たな水、食糧などが入手困難な状況で、一時は1日あたり1人に提供される水の量は「1・5リットル入りペットボトル1本」だったという。

水に関しては、その後改善されたが、食事は朝、夜の1日2食で、朝食は非常用ビスケットと小さなパック入り野菜ジュース1本、夕食は「マジックライス」と呼ばれる温かい非常用ご飯1パックと、サバや鶏肉などの缶詰1つだけだという。

マジックライスは「ワカメ」「ゴボウ」「キノコ」「ドライカレー」の4種類から選べるという。こうした待遇は、東電社員と協力会社社員とも一緒に、東電幹部も同じものを食べているという。

横田氏は「協力したいが基本的には事業者（東電）の問題。大変厳しい環境で作業に必要なエネルギーを得られていないと思う」と話した。

作業員は常時約400人。「約1週間おきに交代していると思われる」（横田氏）が、作業時以外は、原子炉建屋から数百メートル離れた「免震棟」と呼ばれる建物を拠点にしている。下着など衣服も不十分で「着替えも難しい」（同）ほか、免震棟内は暖房が入っているとはいえ、夜間は毛布1枚づつしか与えられず、底冷えする中で眠っているという。

さらに、現地は基地局の倒壊などで、衛星回線を除き、固定、携帯電話ともつながらない状況。「作業員らは家族との連絡手段も断たれている」（同）。トイレの水は確保されているが、「手洗いに水が使えず、洗浄用アルコールを用いている」（同）という。

こうした環境の中、作業員からは愚痴などが聞かれるものの、作業の拒否などには至っていないという。

ただ、発電所内はテレビを全局見ることができ、24日に3人が被曝した事故のニュースでは、現場の放射線量の高さに衝撃を受ける作業員も多かったという。

横田氏は自身が5日間の現地確認中に受けた放射線量は計883マイクロシーベルトだったとし、胸部レントゲン約15回分の放射線量にあたる。

横田氏は「福島第2原発の作業員を第1に投入し、交代を促す」など、第1原発の作業員の過労や、被曝防止の対応が必要との認識を強調した。産経ニュース 2011.3.28

●原発修復、極限の数百人…1日2食、雑魚寝

予断を許さない状況が続く東京電力福島第一原子力発電所で修復作業に当たっている作業員の厳しい労働環境が28日、明らかになった。

この日記者会見した経済産業省原子力安全・保安院福島第一原子力保安検査官事務所の横田一磨所長（39）によると、朝食はビスケットと野菜ジュース、夕食は非常食用の五目ご飯などと缶詰で、1日2食となっている。夜は同原発1号機から北西に約300メートル離れた「免震重要棟」の緊急時対策室で雑魚寝する。各人に配布されているのは毛布1枚だ。東電によると28日現在、同社や協力会社の計450人が所内で作業に携わっている。



28日、経済産業省原子力安全・保安院の記者会見などで明らかになった東京電力福島第一原子力発電所の作業員らの過酷な労働環境。限られた食事、高い放射線量の中、危険と隣り合わせの修復作業が続く。

◆日課◆

原子力安全・保安院福島第一原子力保安検査官事務所の横田一磨所長（39）は22～26日、作業員への指示を行ったり、作業員らが食事や睡眠を取ったりする免震重要棟の「緊急時対策室」に滞在、28日会見を開いて状況を報告した。

免震棟は地震の揺れを軽減できる構造で、昨年7月に利用が始まった。東電によると、2号機で爆発が起きた15日には、東電と協力会社の作業員や技術者計約800人のうち、原子炉への注水を行う約50人を除いていったん所外に避難したが、その後は270～580人程度が所内にいる。

横田所長によると、作業員らは、毎日午前7時にミーティングを行い、各原子炉の状況や作業手順を確認。午前10時頃から午後5時頃まで作業を行い、免震棟に戻って夕食となる。就寝は午後10時過ぎ。夜勤の作業員は寝ずに、計器の数値を監視する。

1日2回の食事のうち、朝は1袋十数枚入りのビスケットを2袋に野菜ジュース。夕食は、水を入れて発熱剤で温められるワカメご飯や五目ご飯、キノコご飯やドライカレーなどと鶏肉やサバの缶詰1個。飲料水は1人1日1・5リットル配られているが、貴重なため、手洗いはアルコールを使っている。風呂やシャワーは使えず、着替えもほとんどない。救援物資の増加も検討されているが、周辺の放射線量が高いため、ヘリコプターでの輸送はできず、東電のバスで運搬している。

東電の現地のリーダー格の男性職員は当初、「乾パンで飢えをしのいだ。わずかな仮眠で仕事を続け、乾パンをかむ力もなくなってきた。お茶が飲みたい」と本店社員に訴えていた。

◆士気◆

夜は冷え込んで寒いのが、対策室や廊下で雑魚寝となる。対策室は約35メートル四方で“すし詰め状態”。イスを並べて寝る作業員もいる。地震が発生した11日からしばらく所内に詰めていたという東電社員は、当初は23時間勤務して1時間の仮眠を取る程度だったという。

屋外の放射線量は依然として高い。このため、免震棟の床に鉛のシートを張るなどして、建物の内部の放射線量を毎時2～3マイクロ・シーベルトに抑えている。

タービン建屋にたまった水などから高い放射線量を測定していることもあり、横田所長は今後の作業では、「水たまりを避けるなどの注意が必要だ」と話す。

作業員は交代があるが、「幹部は（現場を）離れるのは難しい」（横田所長）状況だという。夜のミーティングの終わりには、東電社員の「がんばろう」のかけ声とともに一本締めで、士気を高めているという。2011年3月29日03時03分 読売新聞

【資料6-2】福島原発 19 歳東電社員の日記

2011 年 3 月 15 日（火）

【無事です】

おっす。

東京電力株式会社福島第二原子力発電所環境施設グループの者です。

今福島第二原子力発電所でやっと休憩もらえて、あんまり寝れないんで、日記を書くことにしたよ？

みんなは無事なんかい？

俺あなんとか生きてるよ？？

1Fの影響がこっちまで響いて、復旧作業に支障が出てるけど、2Fはなんとか無事にやっています。

問題は食料と水ですかね？？

みんないつもと比べものにならないくらい仕事してるのに水と食料はないんだよね～。

1Fがあんなだからこっちまで救助も来れないし、あと何日続くのかね～～。

1Fは・・・作業する人もいなくなってきたみたいだね。

親父は生きてかな・・・。

な～んて暗い話ばっかしてないで、ニュースではなかなかやってくれない原発のいいニュースをお知らせします。

1Fの水素爆発が起こった1, 3号機は爆発が起こった原因は水と燃料の水・ジルコニウム反応によるものです。

よって水は今も注水されているわけであります。

水が注水され続けているうちには問題は特には起こりません。

2号機も現在は注水されています。あとはニュースでも行われているとおりです。

2Fですが、1Fの放射線が一時かなりの量が飛んできていましたが、今はとても安定して外に出て作業できるレベルになりました。

だからといって原子力発電所特有の装備をして出ているわけで、屋内にいる人は外に出ないようにしてください。

2Fは4号機ある内、3号機はすでに冷温停止を完了しました。

1, 2号機も今は冷温停止に近付いております。

4号機は注水している最中ですがまだ安心と呼べるまでに至っておりません。

私も含め、4号機への注水活動が続けておりますので、どうか皆さん無事を祈ってください。

私も無事に20歳を迎えたいと思います。

それでは みなさん さようなら。

2011 年 3 月 16 日（水） 3/1518:44

【いろいろなエールを頂きました。】

今日も日記を福島第二原子力発電所環境施設Gの伊澤のPCからお届けしたいと思います。発電所付近では誰もいないことになっているので、携帯の電波はまるできません。遮断さ

れています。

こちらでも体調不良の方や女性の方を中心に避難を始めています。

2Fから避難した方々が避難した場所で、「非難」されていないことを祈ります。

まずはコメントくださった皆様、本当に、本当にありがとうございます。細々としていたサイトがいつの間にか知らない人に知れ渡っていたんですね。(広めた奴だれや!?)

本当に力になります。涙が出ます。(最初のほうの友達のコメント信じられね〜。)

こちらでもテレビやネットで様々なエールを頂いたのを目にして、力をもらいました。

「東電社員死ね」だとか

「現場で作業してる人は偉いとかいってるけど、それが仕事で当たり前。むしろ逃げる奴なんかいたら最低だ。」とか

「たとえ逃げてきても、放射線浴びてきた奴なんか引き取らないでほしい。」とか、

「危険なんか一言も聞いたこと無かったのに、これは裏切りだ。」とか

「原発に送る水、食料が勿体ないから送るな。」とか、

「たとえこの先、原発すべてが安定しても東電を許さない。特に原発所員は隔離してほしい。」とか

「発電所いた奴は原発安定させたら死ねばいいんじゃない??」

だとか、とても力強いコメントを頂きました。

地域の方々、特に友達、知り合い、学校で知り合ったみんなの為に全力を尽くしてきたつもりですが、そんなことで賞賛されることではないことは分かっています。

全力を尽くして対応して当たり前。

否定できないし、しませんし、当たり前なんです。

でも頭で分かっているけど、どうしようもないんです。

親父も今、連絡は取れませんが、私と同じように福島第一原子力発電所で対応しているのだと思います。親父、自分は家族からも背中を押されて、「過労死」だけ気をつけると激励されました。もし親父が1Fで対応しているのなら、自分よりも遙かに過酷な状況で対応しているものと思われます。

母親も連絡はつきません。

もし、誰か知っている人がいたら教えてください。

家族から聞いた話では、原町で孤立状態にあるそうです。

ただでさえ薬が切れたら危ないのに・・・。

望みはほとんど捨てています。もし亡くなっていたとしても、覚悟はできています。途中、何度も助けにいきたかったけど、私情は挟むことはできません。

今は外に出れば、二度と発電所に戻ることができません。

どうか無事でいてほしいですが・・・。

私は親父が1Fで働いてきたこともあり、東電がこれまで地域にもたらしてきた功績がどれだけのものか、理解しているつもりで、地域住民としても感謝してきました。

そんな身近にあつて尊敬する福島の原子力発電所に入りたくて希望したわけです。

でも今は状況が違います。何をしても許されることはないことは分かっています。

東北地方太平洋沖地震を踏まえた
原子力発電所の安全確保に向けた電力総連の当面の対応について

平成23年3月31日
全国電力関連産業労働組合総連合

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により、尊いお命を亡くされた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、被災された方々やご家族の皆さまに心からお見舞い申し上げます。また、未だ行方不明となっている方々のご無事が一刻も早く確認されることを心よりお祈り申し上げます。

このたびの震災による福島第一原子力発電所における事故ならびに放射性物質の放出等により、発電所の周辺地域の皆さまをはじめ、国民の皆さまに多大なご心配とご迷惑をおかけいたしておりますこと、また、電力設備が甚大な被害を受けたことにより、やむを得ず計画的な停電や節電へのご理解ご協力をお願いせざるを得ない状況となっておりますことについて、国民の皆さまに深くお詫び申し上げます。

福島第一原子力発電所につきましては、現在、政府ならびに関係府省庁、自治体、メーカーの皆さま方など関係各位のご支援とご協力を頂戴しながら、事態の悪化防止と収束に向け、現地作業従事者はもとより組織の総力を挙げて全力で取り組んでいるところです。また、国民の皆さまに一日も早く安定的に電気をお届けできるよう、復旧作業に懸命に取り組むとともに、設備の運用・保全に万全を期しつつ、連系設備の活用等を含め供給力の確保に最大限努めているところです。

電力関連産業に働く者としたしましては、これまでから、原子力発電所の安全確保に向け、真摯に取り組んでまいったところであり、過去例を見ない未曾有の震災によるものとはいえ、今般のような事態となったことは極めて残念でなりません。

私ども電力総連は、戦後最大の非常事態である現下の情勢、特に、原子力発電を巡るこのたびの事態を極めて重く受け止めた上で、まずは、福島第一原子力発電所の冷温停止に向け、作業安全を確保しながら、引き続き全力で取り組んでまいるとともに、現在、全国各地で運転中の他の原子力発電所につきましても以下のとおり取り組み、国民の皆さまの安全・安心に万全を期してまいります。

- 原子力発電所における全ての作業従事者の被ばく線量管理、健康管理やメンタルケア、作業従事前の放射線教育や作業環境に関する情報共有等に、より一層万全を期すこと。
- 今般の事故から現時点で得られている知見や情報の共有を図った上で、非常用炉心冷却系統や非常用ディーゼル発電機、使用済み燃料プールの冷却系統など安全確保上重要な機器・設備の健全性を早急に点検・確認するとともに、原子力防災対策の強化など必要な対応を図ること。
- 地震・津波により、電源機能や海水冷却機能、使用済み燃料プールの冷却機能が全て喪失された場合においても、炉心損傷等を防止し、放射性物質の放出を抑制するため、以

下のような安全対策を講じ、原子力発電所の安全確保機能の多重性を拡充・強化すること。また、今後新たな知見等が得られた場合には、速やかに必要な追加対策を講じること。

- ・電源が全て喪失した場合に備えた代替電源の確保や海水系ポンプ予備モーター等の確保、非常用発電機車の配備体制の強化、使用済み燃料プール冷却機能の強化
- ・防護壁の設置など津波対策の強化
- ・全ての電源喪失等の過酷事故を想定したアクシデントマネジメント機能の強化

○原子力発電に関する情報公開を更に徹底するとともに、事故・トラブル時における広報のあり方について、国民の皆さまが理解しやすく分かり易いものに見直しを図ること。

また、食品摂取を含めた日常生活と放射線との関わりや健康影響等について、客観的で分かり易い情報発信にこれまで以上に取り組み、国民の皆さまの安心の確保に万全を期すこと。

以上

●被曝基準超えた作業員の雇用継続求める 労使、国に要望

東京電力 代表者

厚生労働省の小林正夫政務官は8日、福島市内で福島第一原子力発電所の労働環境改善について東京電力や協力会社、労働組合からヒアリングをした。基準を超す放射線を浴びた作業員が今後も原発で働けるよう、国に対応を求める声が労使双方から出た。小林政務官は「一義的には上限を超えた作業員は内勤にするなど企業が責任を持つべき話」と述べ、国の支援策については言及を避けた。

福島第一原発の事故復旧での作業員の被曝（ひばく）線量の上限は250ミリシーベルトだが、累計100ミリシーベルト以上になった人は、法令上は今回の復旧作業開始から5年間は原発で作業ができないとの解釈がされている。現時点で100ミリシーベルトを超えた作業員は21人いる。 *現在30人*

ヒアリング後、東芝の担当者は朝日新聞の取材に対し「今、作業しているのはプロ中のプロ。今後、彼らが原発の仕事に就けなくなるのは損失。規則を変えるべきだ」と話した。福島県電力総連幹部は「上限を超えたら失業してしまう不安が作業員にはある。1人の被曝線量が上がりすぎないように、人手を多く確保するため国も後押ししてほしい」と求めた。

朝日 2011年4月9日 17時14分

〔資料8〕 福島原発事故の補償費捻出で、リストラ提案

危惧されたことが具体的に出ました。福島原発の賠償責任を果たすと言うことでリストラが提案されました。会社は福島第一原発の事故を受けて15日、避難住民らに1世帯100万円、単身世帯には75万円を支払うと正式発表し具体的手続きを始めました。30キロ圏内に居住する約4万8000世帯が対象です。仮払金は約480億円です。銀行から2兆円を借り入れ、政府の負担（つまり税金）もあるとはいえ、農漁民への補償負担は兆単位の天文学的数字になります。

20日付で読売新聞が「東電、従業員数千人削減へ…給与カットも」の見出しでリストラ提案を報道しました。東電は「その様なことは決めていない」とプレス発表。日経も21日付で、「東電、年収2割カット検討 賠償資金を捻出 株・不動産売却も」と報道。

東電労組は、4月1日に、団交で3011春闘要求を全面撤回しました。その後18日に会社から逆提案がうけました。その内容は

- ・ B社員は、定昇なし(基本給表の書き換え一低所運は5%削減)、基準内賃金23年7月から5%カット、時間外算定基礎の変更
賞与は基準内の2ヶ月/年(夏、冬とも1ヶ月 別途協議)
年収概算で20%削減される
 - ・ A社員は、5%カット 賞与は0.9ヶ月/年 年収は2割削減となる
 - ・ パートは、10円増はなし
 - ・ 概算的に、プレス時には年収の2割削減という発表になるが、
一般職は、年2割削減、特別管理職は2～3割削減、役員は、5割削減
 - ・ 人員削減についての言及はない。
- ただし、清水社長は「人員削減も視野に入れている」としています。

東電労組は、今週末から来週に回答するとしていますが「条件交渉はしない」としています。今回は、企業年金削減の提案はありません。労使間の妥結内容は退職者には適用されませんので、その場合退職者の3分の2以上の「同意」が条件です。

東電の場合、有期年金は労働者の拠出がありますが終身年金の原資は全額会社負担です。設立されたのが平成7年ですから設立時点の労働者が今年あたりから75才以上になり支給が始まっていると考えられます。労使間で終身年金の廃止が決められた場合まだ75才以下の退職者は、「将来の権利」を失うことになるわけですが、この法的権利、保障がどうなのか、押さえておかねばと思います。

東電、従業員数千人削減へ…給与カットも

東京電力が、数千人規模の人員削減と給与カットを軸とするリストラ策の実施で労働組合と調整に入ったことが19日わかった。

新規採用を毎年数百人減らし、退職者による自然減を含め5年程度で達成する。不動産や株など資産売却も含めて4000億円程度の資金の確保を目指す。

東電では毎年1000～1500人が退職している。過去数年では1000人程度採用している新規採用も、事務系を中心に数百人減らす。2010年末時点で3万6733人の従業員は数千人減る見込みだ。

従業員の給与は年間1割程度削減する。人員削減と給与カットで年間約4800億円の人件費を数百億円減らす。福島第一原子力発電所事故に伴う賠償金の支払いに備え、手元資金の確保を急ぐ。読売新聞4月20日

東電、年収2割カット検討 賠償資金を捻出 株・不動産売却も

東京電力が労働組合に対し、社員の年収を2割程度カットする提案をしたことが20日、明らかになった。福島第1原発事故の賠償金などの資金確保に備え、人件費の圧縮を急ぐ。株式や不動産などの売却を進める。合理化計画を策定し、大規模リストラにより千億円単位で資金を工面する。

労働組合とボーナスの削減などについての交渉に入った。東電労組の組合員数は約3万2千人。役員や管理職の報酬は4月から削減に踏み切る。人員についても「合理化という意味での人員削減も視野に入れている」（清水正孝社長）としている。

東電は2010年3月期に1337億円の最終利益を上げている。今後国の支援を得るには資産の売却や人件費の削減など徹底した自助努力が前提になる。東電では「資産をどれだけ売っても（賠償負担を）『全額東電で』ということなら、とても足りない」（勝俣恒久会長）としている。

このほかKDDIなど出資先の株式売却を進める。大手金融機関や鉄道など約250社の株式を保有しており、その多くの売却に動く見通し。株価に影響を与えないよう、売却時期や方法には配慮するとみられるが、KDDI株を売却すれば、約1800億円規模の資金を確保できる計算だ。

不動産でも電力事業に直接関係ない資産の売却を進める。グループ会社の東電不動産（東京・中央）が所有する賃貸用オフィスビルなどが対象とみられる。売却可能な不動産は3000億円規模とされる。日経2011/4/21

東電が不動産1000億円売却へ…賠償金に充当

東京電力が、グループで保有するビルや遊休地、社宅など約1000億円相当の不動産を売却することが15日、明らかになった。

すでに金融機関などに売却を打診しており、来年度にかけて順次実施する。東電は、福島第一原子力発電所の事故に伴う賠償金の支払いで、巨額の資金が必要になる見込みで、国や他の電力各社に資金支援を求める前提として、自ら資産売却を進め、資金確保を急ぐ。

東京電力は、発電所や変電所など事業に必要な施設や土地以外にも、社宅や保養所なども保有し、不動産関連事業やホテル運営も手がけている。

東電は、不動産を主力とする住環境・生活関連事業の売上高が2009年度に1335億円ある。関係者によると、売却できる不動産は3000億円規模という。このうち、早期に売却可能な不動産を、今年度と来年度にそれぞれ500億円分売却する方向だ。

（2011年4月15日 読売新聞）